

会 議 名	第5回木更津市駐屯地に関する協議会定例会		
開 催 日	令和6年11月27日(水)	場 所	駅前庁舎 防災室・会議室
時 間	午前10時30分～午前11時30分まで		
出 席 者	渡辺会長(木更津市長)、鶴岡委員(木更津市議会議長)、斉藤委員(木更津市議会基地政策特別委員会委員長)、森委員(北関東防衛局長)、廣瀬委員(木更津駐屯地司令)、渡辺委員(木更津市企画部長・部会長)		
議 題	木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について(公開)		
そ の 他	なし		
配 付 資 料	01 会議次第 02 委員名簿 03 座席表 04 【資料1】木更津駐屯地に関する協議会部会の開催結果について 05 【資料2】令和6年度木更津飛行場周辺騒音測定結果について		
概 要	※議題に入る前に、廣瀬委員から、令和6年10月27日に与那国駐屯地で発生した陸上自衛隊オスプレイの航空事故について、事故の概要や再発防止策等について説明があった。 廣瀬委員)先月27日、第1ヘリコプター団所属航空機であるV-22オスプレイが、与那国駐屯地において、日米共同統合演習での患者後送訓練のために、ホバリングに移行し、上昇のための前進を開始した際、操縦士が予期しない高度低下が発生したため、離陸を中止し、周辺の平地に接地した。接地直後に再度航空機が上昇し、左右交互の揺れが発生したことで、離陸時に左翼下部が地面に接触し、航空機を損壊させる事故を発生させてしまった。人的被害や駐屯地外への影響はなかったが、協議会会長をはじめ各委員及び地域の皆様に多大なご心配やご不安をおかけした。今回の事故発生に伴い、陸上幕僚監部に事故調査委員会が設置され、機体・構成品の破損状況の調査、フライトデータレコーダー等の解析、当該事故機の整備状況、関係者からの聞き取り等により、事故原因を特定するとともに、再発防止策の検討等が行われた。これは、防衛大臣にも報告している内容である。事故の原因については、物的要因及び外的要因の関連はなく、エンジン出力関連の機能のスイッチを作動させなかったこと、地面付近の機長の操作が不良であったことと特定され、人的要因に起因するものとされている。再発防止策としてスイッチONの失念を防止するためのマーキングを実施するとともに、離陸中の出力低下時の緊急操作手順や操縦士の連携要領等に係る教育を座学、シミュレーターを用いて徹底した後、実機による教育を実施した上で飛行を再開している。陸上自衛隊としては、地元の方々のご不安やご懸念を払しょくできるよう、組織全体として同種事案を発生しないための再発防止の徹底を図り、安全態勢をより一層強化して、地域の皆様の信頼回復に全力を尽くしてまいりたい所存である。 渡辺委員)今般の事故調査の結果を踏まえ、今月15日以降、飛行を再開したとのことだが、日米共同統合演習に参加していた機体や隊員を含め、再発防止策の実施状況について伺う。 廣瀬委員)日米共同統合演習に参加していた航空機も含めて、すべての機体にスイッチのマーキングの処置を完了している。隊員に対する再発防止策については鋭意取り組んでおり、再発防止を徹底するための教育及び訓練を終えた隊員から随時飛行を再開している。 渡辺会長)今般の事故について、改めて、再発防止策を徹底していただくとともに、人的要因による事故が発生しないよう安全管理の徹底をお願いする。 議題 木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について 【説 明】 ●渡辺委員説明 説明資料に基づいて説明		

【主な質疑応答・意見等】

鶴岡委員)昨年11月に鹿児島県屋久島沖で米空軍オスプレイの墜落事故が発生し、本年3月には、オスプレイの運用停止措置が解除されたが、オスプレイの機体の安全性に対する市民の懸念は高まっている。また、本年8月には、当該事故に関する事故調査報告書が公表されたが、同報告書によれば、複数回、警告灯が表示されたにも関わらず、飛行を継続した操縦士の意思決定が事故につながった要因の1つとされている。その中で、警告灯が表示された場合、飛行を継続するかどうかの決定権は、規則上、操縦士にあるとのことだが、オスプレイを運用する陸上自衛隊においても、米軍と同様の規則を準用しているということなのか、あるいは独自のマニュアルがあるのか伺う。

廣瀬委員)輸送航空隊においても米軍と同様の手順書を使用しており、警告灯が表示された場合の判断、決定権も同様に操縦士にある。一方で同乗している副操縦士、整備員については、手順書の確認、読み上げ等を実施するなどして、操縦士の的確な操作、判断等を補佐しており、搭乗員が一体となって適切な行動を採り得るよう対応している。

鶴岡委員)昨日(11月26日)、当市議会も加盟する全国市議会議長会基地協議会が国に対し、基地対策関係施策の充実強化についての要望活動を行った。その中で、オスプレイの安全性に対する不安を払拭するため、安全対策措置の徹底について要望しているが、改めて、どのようにオスプレイの運用面における安全性を確保されているのか伺う。

廣瀬委員)輸送航空隊では、各種任務に即応して任務を完遂し得るよう教育訓練上の目標を設定し、操縦士・整備員の人材育成及び練度の維持・向上に励んでいる。また、日々の飛行前には、搭乗員全員が一堂に介して飛行内容に関して認識を統一するとともに、機体の点検・整備を確実に実施し、安全管理を徹底している。与那国駐屯地における事故は人的要因が原因であったが、人的要因による事故・不安全を可能な限りゼロに近づけるため、指揮官等による安全指導、操縦士・整備員のCRM、クルーリソースマネジメントといわれる搭乗者の協力・連携等により、努めてその発生リスクを局限することが重要であると考えている。このためには、今回の教訓を含めたこれまでのオスプレイに関する事故・不安全に係る教育を再度実施するとともに、様々な環境下において生じ得る手順等を想像して対策を確立し、操縦士・整備員が常に連携して安全な運航態勢を確保していくことを習慣化するよう指導を徹底してまいらる。

鶴岡委員)先月7日に、当市議会から防衛省に対し、基地対策関係施策に関する要望書を提出させていただいた。その中で、陸上自衛隊オスプレイの暫定配備期限の遵守について要望させていただいたが、陸上自衛隊オスプレイの移駐に必要な施設整備が来年6月末までに完了した場合に、来年7月9日の暫定配備の期限までに移駐が完了し、5年以内を目標とする暫定配備期間の約束を果たすことができるのか伺う。

森委員)陸上自衛隊オスプレイについては、令和2年7月10日に暫定配備を開始しており、木更津市に対し、陸自オスプレイの暫定配備期間は5年以内を目標とする旨ご説明してきたところである。防衛省としては、陸自オスプレイの移駐に最低限必要な施設整備を令和7年度6月末までに完成させることとしており、その後、駐屯地を開設、陸自オスプレイの移駐を進める予定である。現在、佐賀駐屯地(仮称)に関する工事を着実に進めているところであり、木更津市に対し陸上自衛隊オスプレイの暫定配備期間は5年以内を目標とする旨ご説明していることを踏まえ、引き続き最大限の努力を行ってまいらる。

斉藤委員)最大限の努力を行うとのことだが、佐賀駐屯地(仮称)に関する工事の進捗状況について伺う。

森委員)陸上自衛隊オスプレイの移駐に最低限必要な施設の整備を令和7年6月末までに完成させるよう進めているところであり、工事は順調に進んでいるものと認識している。

斉藤委員)場周経路について伺う。昨年の協議会では、離陸・着陸における騒音の分散・軽減を図るため、一部の地域の上空を連続的に飛行しないよう検討もしているとの回答があった。最近では、西側の固定翼機の場周経路よりもさらに北側をオスプレイが飛行しているのを目にするが、騒音の負担軽減に向けた取組みとして、

	新たに飛行経路を設定されたのか伺う。 廣瀬委員)場周経路については、昨年11月に行われた本協議会において、騒音軽減策の一環として、一部の地域の上空を連続的に飛行しない方針についてお示したところである。この方針に基づき、昨年11月から、騒音軽減策の一環として、これまでの場周経路に加え、アクアラインを一部超える経路の飛行を試行的に実施しているところである。今後、市の皆様のお考えを踏まえつつ、騒音軽減の観点から、追加の場周経路を設定したいと考えており、その際にはご説明させていただきたいと考えている。なお、場周経路は、航空機が安全かつ円滑に離着陸を行うために設定しているものであるが、気象状況等により場周経路どおりの飛行とならない場合もあることをご理解いただきたい。 斉藤委員)アクアラインの北側を飛行するとなると、今まで騒音がほとんどなかった場所で騒音があるということで、その地域からの騒音苦情が駐屯地や市役所ではなく我々に寄せられる。騒音負担が増えている地域があることについて見解を伺う。 廣瀬委員)一部の地域に騒音負担が生じていることは承知している。一方で、場周訓練においては、現在においても、他の航空機等の運航状況を考慮しつつ、東京湾南部への飛行を取り入れるなど、努めて同地域上空の連続飛行を避け、騒音の負担を軽減し得るよう取り組んでいる。また、騒音苦情が発生した場合には、航空機へ無線で連絡し、当該地域を避けて飛行するなど、引き続き地域住民の皆様の負担軽減に努めてまいりたい。 斉藤委員)夜間・早朝の騒音について伺う。特に夜間については、南風の際に久津間、畔戸地域への影響が大きいことから、騒音軽減策を徹底していただきたいが、夜間・早朝の騒音の負担低減に向けた取組について伺う。 廣瀬委員)深夜・早朝及び休日の飛行については、騒音配慮の観点から自隊訓練飛行は基本的には避けている。一方、各種事態や災害への対応等が生じた場合には、飛行することがあることをご理解賜りたい。なお、任務の都合上、どうしても夜22時から朝7時の間に運航する必要がある場合、エンジン始動と停止を、飛行場の西側において実施することを規則で定めている他、安全を確保し得る範囲内において海側から着陸する等、運用の工夫も実施している。 斉藤委員)アクアラインの北側を飛行するということは、小中学校の上を飛行するということになるが、先生方から学校の上空は飛行しないでほしいという声が強いので、小中学校の上空は飛行しないでいただきたい。 廣瀬委員)基本的には学校の直上は避けて飛行しているが、引き続き、特に昼間は避けて飛行するよう、考慮してまいる。 斉藤委員)整備用の格納庫が1つ完成して、もう1つ自衛隊用の格納庫の整備を行っており、来年7月には、陸上自衛隊オスプレイは佐賀に移駐するが、整備用の格納庫なのか、当該格納庫の活用方法について伺う。 廣瀬委員)基本的には、定期機体整備用の格納庫として運用する予定である。現在整備している格納庫が日本側の整備用格納庫になるので、佐賀へ移駐後も当該格納庫において定期機体整備を行う予定である。 斉藤委員)陸上自衛隊オスプレイの整備用の格納庫ということだが、いつから整備が始まるのか伺う。 廣瀬委員)定期機体整備の時期については、航空機の飛行時間等によって決まっていることから、現時点でお答えすることはできない。少なくとも整備用の格納庫が完成しない限りは、定期機体整備は行わないものとする。 渡辺会長)昨年、本協議会を開催した時点では、14機のオスプレイが暫定配備されていたが、現在は、17機全機が配備されている状況となっている。また、昨年、本市が2地点で実施した騒音測定のうち江川総合運動場で実施した騒音測定について、環境基準を上回る結果となった。本年6月にも江川総合運動場で騒音測定を実施したとのことなので、その結果について事務局から説明をお願いする。 【説 明】 ●事務局説明 説明資料に基づいて説明
--	---

	渡辺会長)次に、昨年、市が実施した騒音測定の結果、1地点で環境基準を超過したことから、防衛省北関東防衛局と協議のうえ、本年7月に防衛省北関東防衛局が木更津駐屯地の南側に位置する下水処理場内で実施した騒音測定の結果について、森委員から説明をお願いします。 森委員)昨年度の協議会において、騒音測定の実施について木更津市から強い要望があったことから、木更津市にご相談したうえで、本年7月2日から9日までの間、木更津駐屯地の南側に位置する下水処理場で木更津市と同様に1週間24時間の騒音測定を実施した。騒音測定の結果については、騒音発生回数は185回、Lden値は47デジベルであり、環境基準値であるLden57デジベルと比較し下回る結果となった。 【主な質疑応答・意見等】 渡辺委員)本年7月に防衛省北関東防衛局が実施した騒音測定では、環境基準を下回る測定結果となったが、一方で、本年6月に市が実施した騒音測定では、昨年に引き続き、環境基準を上回る測定結果となった。来年7月の暫定配備の期限まで、基地周辺住民の皆様の負担軽減に向けた対策をより一層講じる必要があると考えるが今回の測定結果の受け止めについて伺う。 森委員)先ほど説明いただいたとおり、木更津市が実施した騒音測定においては、昨年に続き航空機騒音に係る環境基準であるLden57デジベルを超過していると認識している。測定場所としては、市は駐屯地の滑走路北側、当局は駐屯地の滑走路南側で実施したところであるが、測定場所によって音の影響は異なるものの、いずれの測定場所においても、既に環境整備法第4条の規定による第一種区域に指定されているところである。当局としては、この地域内において、屋内でLden47(60W)デジベル以下となるよう、平成7年度より住宅防音工事の助成の措置を採っているところである。いずれにしても、木更津駐屯地周辺の航空機騒音については重要な問題であると認識しており、引き続き住宅防音工事の助成の着実な実施について最大限努力してまいらる。 渡辺委員)昨年より、洋上から飛行場に進入する経路を設定するなど、騒音の負担軽減策を講じているものと承知しているが、今回の騒音測定の結果を踏まえた負担軽減策について伺う。 廣瀬委員)駐屯地としては、引き続き、場周飛行にあたっては離着陸時の飛行高度保持の他、場周経路の連続飛行回避や離着陸の間隔を開ける等の処置を講じて、騒音の分散と負担軽減に取り組んでまいらる。 渡辺委員)基地周辺住民の方々からは、最近、夜間訓練も増えていると伺っている。部会委員からも質問があったが、今後、佐賀への移駐に向けて、訓練のレベルが向上し、このことにより、市民への騒音による負担が増すことがないのか、改めて伺う。 廣瀬委員)夜間訓練については、具体的な数字は申し上げられないが、例年と同等の頻度で実施している。また、輸送航空隊の操縦士の練度、訓練レベルは逐次向上しており、飛行場外での訓練が増加するとともに、場周経路を飛行できる航空機数は決まっていることから、夜間における場周訓練の量に大きな変化はなく、騒音の負担が増加することは少ないと考えている。一方で、気象状況を踏まえながら、騒音の負担軽減と分散に取り組んでまいらる。 齊藤委員)夜間の場周経路について、すぐ洋上に出て、洋上から滑走路に進入するという経路が設定されているとのことだが、その飛行経路だと、南風の際に非常に騒音による影響が大きいのであるが、その点について伺う。 廣瀬委員)風向き等気象状況を踏まえながら、引き続き、騒音の負担軽減と分散に取り組んでまいらる。 渡辺会長)防衛省の皆様には、ぜひ、地域住民の視点に立った飛行運用を、引き続き、お願いします。それでは、次に北関東防衛局からの報告事項をお願いしたい。 森委員)それでは、私の方から、陸上自衛隊オスプレイの配備状況や当局の周辺対策事業についてご報告させていただく。まず、陸上自衛隊オスプレイの配備状況であるが、令和2年7月にオスプレイの暫定配備を開始し、昨年11月に第4回協議会
--	---

	が開催された時点では14機が木更津駐屯地に配備されている状況であったが、本年6月までに3機の機体が輸送され、現在は17機全機が配備されている状況となっている。これまでの間、木更津駐屯地周辺の皆様から騒音問題などのご意見がある中、安定的な運用が実現できていることに関しては、偏に木更津市の皆様のご理解とご協力の賜物であると考えている。この場を借りて、改めて御礼申し上げる。次に周辺対策事業であるが、当局では防衛施設の設置運用に伴う障害を防止軽減緩和するための事業として補助金交付業務を行っており、今年度については、高規格救急自動車の更新事業に対する助成をしている。また、まちづくり構想策定支援事業については、令和3年度から助成しており、本年度をもって完了する予定である。令和7年度からは、ご要望のまちづくり支援事業においても、引き続き、所要額の確保に向けて最大限の努力をしまいる。加えて、特定防衛施設周辺整備調整交付金については、木更津飛行場の運用の態様やそれに伴う周辺地域への影響などを考慮し、前年度と比べ増額となったところである。今後も引き続き適切に対応してまいる。防衛省の補助事業については、基地運用の安定、また、基地周辺の皆様へのご負担をおかけしていることへの低減を目的としているが、市の取組をお手伝いさせていただく中で、市民の皆様にご負担をいただくものに補助していくことが我々にとってもやりがいとなっているところであるので、引き続き、協力させていただきたい。最後に、陸上自衛隊オスプレイを始めとする木更津駐屯地における自衛隊機等の飛行については、その運用上不可欠なものであるが、他方で、航空機の運用がある限り騒音は発生してしまうものであり、地元の皆様とりわけ飛行直下の住民の方々には航空機騒音など航空機の運用に伴いご負担をおかけしているということは十分認識している。このため木更津駐屯地においては、陸上自衛隊オスプレイを含む航空機の運用に関して、従来から運用上やむを得ない場合を除き、早朝・夜間及び土日、祝日における航空機の飛行を控えるとともに、協議会における皆様のご意見を踏まえ可能な限り基地周辺の皆様への影響に配慮した運用を行っている。先ほど斉藤委員から、色々と直接お声を受けておられるというお話をいただいたが、部隊の方でもそういったお声を把握することが大切だと認識している。そういった声を知らずに飛行するのではなく、市民の皆様がどこでどういう形でご負担に思われているのかというのを把握した上で、極力そこを避けるような飛行ルートを工夫するなどの配慮を行っているところである。騒音を皆無にすることが難しいところであるが、引き続き、ご協力をお願いしたい。 渡辺会長)次に木更津駐屯地からの報告事項をお願いしたい。 廣瀬委員)部品落下事案についてであるが、今年度は部品落下事案を2件発生させてしまい、地域の皆様にご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。現在は、飛行前後に部品落下箇所の目視・触手点検を実施するとともに、定期的に当該部品の状態を点検している。また、機内からバック等が飛散・落下しないよう、カラビナを取得してバック等の携行品を確実に緊締し、同種事案が生起しないように再発防止に努めている。駐屯地としては、V-22の木更津における暫定配備期間も1年を切り、佐賀県への移駐に向けて戦力化と諸準備を着実に進めているところである。特に、輸送航空隊は、離島奪回を主任務とする水陸機動団の空中機動の他、習志野の空挺団や海空自衛隊のみならず、米軍やオーストラリア軍といった各国軍隊との連携、相互運用性等についても向上し、あらゆる事態に対応し得る隙のない防衛態勢の構築の一端を担っているところである。先月の日米共同統合演習(キーンソード25)では、初めてV-22が沖縄本島及び我が国最西端の与那国島において訓練を実施し、南西地域の島嶼部に対する迅速な輸送力を国内外に示し、我が国防衛の抑止力の一助になったと認識している。引き続き木更津駐屯地としては、安全対策と地元の皆様への負担軽減等に最大限の配慮をいつつ、航空機の安全な運航に努めてまいるので、今後ともご理解・ご支援を賜れば幸いである。 渡辺会長)森委員、廣瀬委員におかれましては、引き続き、基地周辺の皆様への最大限の配慮と負担の軽減をお願いするとともに、市民の皆様への丁寧な説明と適切な
--	---

	情報提供についてもお願いしたい。あわせて、災害、国防等厳しい状況ではあるが、隊員の皆様のご健康とご無事を祈念申し上げます。 【その他】 無し
--	--